

# Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●



## みすず書房の本棚

[無料送付]

No.3 2012 夏

(表示価格は消費税込です)

113-0033 東京都文京区本郷 5-32-21 tel. 03-3814-0131 http://www.msz.co.jp

### ヨアヒム・ラートカウ河の大氾濫 『自然と権力』という「生きるための歴史学」

安富歩

ラートカウさんとはじめてお会いしたのは、二〇一二年一月二十九日に大阪市立大学の主催で行われたシンポジウムにおいてである。ラートカウさんの報告は、底なしの深い知識と強靱な判断力を感じさせるものであった。実を言うと私はそれまでラートカウという歴史学者の存在を知らなかったのだ、驚き、畏れいつてしまった。

『自然と権力』は、タイトルのごとく、自然と権力との相互関係を、歴史的観点から論じているが、その対象となる地域は、地球表面の全ての地域に及んでいる。主として二次文献に依拠しているが、そこで論じられている研究書の量たるや、まったく凄まじい。第3章の途中あたりで、世界中のあちこちの川の洪水とそれを阻止するためと称する権力の形成が論じられるが、それを読んでいるうちに私は、この本から溢れだ

らかの目的をもって語られるのであり、それが如何に事実から乖離しているかを明らかにすることが、環境史のひとつの役割である。それは危機の物語のみならず、「危機など捏造だ」という逆のレトリックについても言える。

は、ラートカウさんが、普通なら決して見られない一次資料を駆使し、本音を言うはずのない原子力関係者から本音を引き出して原子力産業の歴史を書いたことを知った。こういう史料に「たまたま出会う」ということは、その人が偉大な歴史家であることを立証する、重要な指標である。

す知識の洪水に巻き込まれ、まるでディズニー映画『ファンタジア』の「魔法使いの弟子」のミッキーマウスのように、無数の箒の汲み上げる水に流されていく気がした。

この煉獄を離脱して、個々の現場における一見したところ些細に見える事実の積み重ねのなから、進むべき道を見出し、それを連帯可能な人々との関係を取り結ぶための契機とする、そのような「運動」や「研究」のあり方が人々の心に訴え、事態を改善する力を持つ。

原子力、気候変動、食の不安、生殖テクノロジー……。現在、いたるところで環境が政治の課題となり、人間の自然との関わりが権力の行使と結びついている。だが、自然と権力の結びつきは二〇世紀後半になって初めて生じたのではない。本書は多様な地域と時代をめぐり、グローバルな構造とローカルな多様性を照合しつつ、そうした結びつきの歴史を論じる。人間と自然のハイブリッドな諸結合の組織化、解体の過程を緻密に描き出し、環境への眼差を一新する環境史となっている。

さらに、日本の環境史を論じた書き下ろしの一節に加え、日本語版への序文とあとがき(フクシマの事故後に考えたこと、そしていくつかの個人的告白)が寄稿された。ドイツ屈指の環境史家の主著、待望の

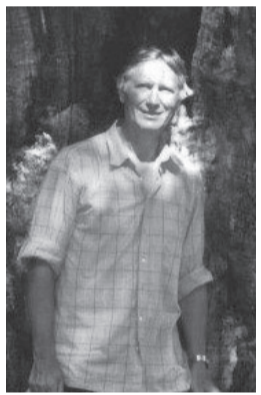
『自然と権力』は、タイトルのごとく、自然と権力との相互関係を、歴史的観点から論じているが、その対象となる地域は、地球表面の全ての地域に及んでいる。主として二次文献に依拠しているが、そこで論じられている研究書の量たるや、まったく凄まじい。第3章の途中あたりで、世界中のあちこちの川の洪水とそれを阻止するためと称する権力の形成が論じられるが、それを読んでいるうちに私は、この本から溢れだ

らかの目的をもって語られるのであり、それが如何に事実から乖離しているかを明らかにすることが、環境史のひとつの役割である。それは危機の物語のみならず、「危機など捏造だ」という逆のレトリックについても言える。

## ドイツ屈指の環境史家の主著

付・日本語版へのあとがき  
「フクシマの事故後に考えたこと」

ヨアヒム・ラートカウ  
《自然と権力 環境の世界史》  
海老根剛・森田直子訳



自転車旅行中の著者

＊月刊『みすず』に昨年掲載されて、大きな反響をよんだ「ドイツ反原発運動小史」を収めるラートカウ書き下ろしの著書を、本書に続いて今秋、小社から刊行予定です。

この膨大で幅広い知識を必要とする本を、正確に翻訳するという偉業を成し遂げた訳者に敬意を表したい。

(やすとみ・あゆむ 社会生態学  
東京大学東洋文化研究所)



「ね、おばあちゃんがお手本にしている人って？」  
「昔はお手本にした人がたくさんいたわ。…思っていたのと違うとわかってがっかりさせられたこともあるわね。最初のお手本はもちろん両親よ。そして、十歳で少女団にはいると、アドルフ・ヒトラーがお手本になったの」「ヒトラー？」ハンナは驚いて大声をあげた。「ヒトラーって大悪人でしょ？ なのになぜ……」  
「子どもたちは、ヒトラーはドイツで一番偉い人だと教えられたの。ラジオでヒトラーの死を聞いたとき、私は泣いたわ。ヒトラーのいない世の中なんて想像できなかった……」  
当時、十代前半の子どもの目に映った「あの時代」を克明に伝える20の物語。大戦下、ナチスの思想は都市・農村を問わず組織的に国中に浸透し、「世界に冠たるドイツ」

### 菓子から見えるアメリカと20世紀

ジョエル・G・ブレナー 著 玲子訳  
《チョコレートの帝国》



コーラとともに、アメリカ大衆文化の象徴といえるチョコレート業界で、常にトップを争ってきた、キスチョコの「ハーシー」と、色とりどりのM&Mチョコで知られる「マーズ」。いずれの創業者も手作り菓子の行商から身をおこした、アメリカンドリームを体現する人物である。ハーシー社のミルトン・ハ

「戦争」をもビジネスに利用。チョコレートは軍の糧食の柱となり、国内では愛国産業と

二〇〇四年、フランス政府は公立学校でイスラムのヴェールなど宗教を誇示するもの着用を禁止した。違反する少女達は放校処分。背景にはヨーロッパが普遍主義を謳いながら、イスラム世界に対して行ってきた植民地主義・人種主義・女性差別がある。

異質な他者への不寛容が法

「経済・歴史」  
「音楽・民族学」(六月下旬刊)  
「音楽・民族学」(六月下旬刊)  
「音楽・民族学」(六月下旬刊)

### イスラムとEU 日常化する不寛容

ジョーン・W・スコット 著 李孝徳訳  
《ヴェールの政治学》

制化され、差別と紛争が日常化するEUの現在と問題の根幹を明らかにする基本図書。李孝徳が前訳書のフレドリクソン『人種主義の歴史』(三三〇頁)に付した「日本の人種主義をみすえて」に続き、解説論考を付す。

「社会学」(七月中旬刊)  
「社会学」(七月中旬刊)

## 十代が体験したナチスの時代

グードルン・パウゼヴァング 著  
《そこに僕らは居合わせた》  
語り伝える、ナチス・ドイツ下の記憶  
高田ゆみ子訳

ツの理想は少年少女をも熱狂させた。加害者でも被害者でもなく、しかし時代を体験し、その狂気に翻弄され……ヤングアダルトのフィクション『みえない雲』(邦訳は小学館刊)で、80年代に原発禍をいち早く警告した著者は、自身、終戦時に17歳。「軍国少女」から、戦後は価値の180度の転換を迫られた世代に属する。「この時代の証言者はまもなくいなくなる。だからこそ、真実を若い人に語り伝えなければならぬのです」  
戦後60年、明るみになることのなかった負の歴史が、痛

みをおして今、語られる。「文学・現代史」(七月中旬刊)  
「文学・現代史」(七月中旬刊)  
「文学・現代史」(七月中旬刊)

### 世界初のジャズ論

アンドレ・シエフネル 著 昼間賢訳  
《始原のジャズ》

一九二〇年代初頭パリ、ジャズは未だ大衆にとつてノイズだった。そうしたなか、ジャズを真剣に受け止め、見抜こうとしたのがシエフネルであった。音それ自体、楽器の響きに基づく独自の音楽観が展開された本書は、ジャズ進化の果ての今こそ、逆に予断なくひもとける快書である。

### 宙吊りの魅惑、気鋭の本格論考

三浦哲哉 著  
《サスペンス映画史》

「サスペンス」とは、宙吊りの状態、未決定の状態に置かれること。登場人物および観客をもそんな状態に巻き込むのが、サスペンス映画である。ひとはなぜ自らすすんで、そんな不自由と恐怖を求めて映画を見るのか。

### クラシック音楽と私の半世紀

徐京植 著  
《私の西洋音楽巡礼》

「私がここで書いたことは、音楽批評ではない。一人のアマチュアである私が、音楽という鏡に映して自分自身を語ったのである。私がかつて『私の西洋音楽巡礼』に書いたことも、美術批評ではない。美術という鏡に映る自分自身を語った。そこに映ったのは三十代の私、一九八〇年代の私

### 自然淘汰へのアンチテーゼ

ヤーコフ・フォン・ユクスキュル 著 前野佳彦訳  
《動物の環境と内的世界》

二〇世紀前半の生物学に「環境世界」という画期的なパラダイムを導入したユクスキュルの名著。その革新性は遠くサイバネティクス、カオス・複雑系から人工生命理論までを射程に収める。

### あなたは世界の所得分布のどこに?

フランコ・ミラノヴィチ 著 村上彰訳  
《不平等について》

世代間格差の拡大、反格差社会。第2に、国や民族の間の所得の不平等を取り上げたイルストロイトなど、所得格差の問題は新聞記事の定番だが、その「不平等」がどのよう測られるのか?は、基本的に案外難しい問題だ。



「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」  
「動物の環境と内的世界」

### みすず書房新刊 (2012.1.6)

人生と運命 [全3巻]  
グロスマン 戦争と収容所の時代に権力を握り、自由を手放さなかった人の奇跡の文学。齋藤滋 訳 ①四五一五②③各四七二五  
ニールス・ボーアの時代  
物理学・哲学・国家 [全2巻]  
バイス アイニシタインとともに20世紀科学を主導した巨人。第一人者が描く決定的伝記。西尾成子他訳 ①六九三〇②七九八〇  
ドビュッシューをめぐる変奏  
印象主義から遠く離れて  
シエフネル、ドビュッシューの本質と革新性を迫る先駆的著作。山内里佳訳 三九九〇円  
知識と経験の革命  
科学革命の現場で何が起きたか  
ディア 科学はかたに自然を理解することから利用することへ「革命」されたのか。科学革命期の見取り図。高橋憲一訳 四四二〇円  
イトコたちの共和国  
地中海社会の親族関係と女性の抑圧  
ティヨン、ヴェールによる女性隔離の起源は宗教ではなく、親族構造であることを解明した民族学の名著。宮治美江子訳 四二〇〇円  
ピダハン  
「言語本能」を超える  
エウレット「大好評2刷」数も「左と右」もないピダハン族の世界が、文化と言語の普遍幻想を揺さぶる。屋代通子訳 三三七〇円  
通訳翻訳訓練  
基本的概念とモデル  
ジル 多くの指導者、研究者、学習者が強く支持する名著。プロとしての指針と、問題の解決法を解説。田辺希子他訳 五二五〇円  
老化の進化論  
小さなメトセラがロース。老化とは何か。老化の諸現象を生む進化的論理を探り、寿命の新たな意味を問う。第一人者の報告。熊井ひろ美訳 三二五〇円  
1968年 反乱のグローバリズム  
フレイ 学生運動がこの時代に世界中で起こったか。米仏独伊英日、東欧の出来事を詳細に追う快作。下村由一訳 三七八〇円  
時の余白に  
芥川喜寿 世相に思っている美を手がかりに、現代社会を照射した人気コラムの書籍化。震災後半年を含む五年余の軌跡。二二二五円  
建築を考える  
ツムトア 世界中のクリエイターの尊敬を集める巨匠が、創造にこめる確かな想いを綴った名著。待望の邦訳。鈴木仁子訳 三三六〇円  
《始まりの本》  
ノイズ 音楽・貨幣・雑音  
アタリ 生活の雑音から音楽産業へ。音楽の変容を通し描かれる消費社会・文化の近未来図。金塚貞文訳 陣野俊史解説 三三六〇円  
《始まりの本》  
素足の心理療法  
霜山徳爾 熟達な臨床家が遺した最初で最後の指南書に、単行本未収録論考「心理療法の此岸と彼岸」を収録。妙本浩之解説 三二五〇円  
《始まりの本》  
チーズとつじ虫 の世界像  
ギンスブルグ 異端審問記録から民衆文化の深層を照らすスリルに満ちた現代歴史学の名著。杉山光信訳 上村忠男解説 三九九〇円  
《大人の本棚》  
ウイリアム・モリス通信  
小野二郎 没後三十年。モリス研究の第一人者がゆかりの土地や建物を訪れて綴った晩年のエッセイを精選。川端康雄編 二九四〇円  
大隈重信関係文書 8  
徳蘇蘇峰が西欧から宛てた74通初め、初公刊の中江兆民書翰、新島襄など一七七名。早稲田大学大学史料センター編 一〇五〇〇円  
《書物復権 2012 5月》  
第16回を迎えた「書物復権」8社共同復刊におきまして、皆様からのリクエストにより、次の書籍を復刊いたしました。

東京文京本郷5-1-1 (三三六〇円) (価格は税込です)

それは海岸で見つけた、ただの小石。そこから四六億年の記憶が解き放たれる。小石に閉じ込められた元素、鉱物、化石の来歴を調べ、地球全史をエレガントに描き出す珠玉作だ。

この小さな本に収まっているのが不思議なほど、壮大な地球の営みが躍如として描かれている。小石のルーツをたどる旅は、古代の海で奇妙な怪な太古のプランクトンたちに出逢い、地下に潜っては高密度空間における鉱物の変化を白昼夢のように眺め、あるいは雲母の粒や石英の結晶の超ミクロ構造にクローズアップして、大陸の移動や造山運動の生み出す圧力も、そんなダイナミックな冒険なのだ。

著者の専門とも関連の深い、小石の「泥の時代」の記述がまず見事。「筆石」「アクリターク」「キチノゾア」といった微化石が、いまとなつては謎そのものである古代の生きものたちの繁栄を物語



## エレガントな地学

ヤン・ザラシーヴィッチ  
《小石、地球の来歴を語る》  
江口あとか訳



る。シルル紀の酸素に乏しい海底の生態系は、目を見張るようなデザインと多様性に満ちていた。  
それに続くのは小石が「岩石」だった時代。小石の中に遺された鉱物のデイトルから、四次元の複雑さをもつ地球の脈動が見えてくる。  
研究者たちが小石を扱う繊細な手つきに込めた情熱と興奮が、本書の細部にきらめきを与えている。冒頭で著者が海岸から拾い上げた小石が、ついには太陽系外の惑星にまで行き着く(！)ので、どうか最後までお見逃しなく。  
『地球科学・鉱物・化石』(四六判・268頁・三二五〇円)

## 大人の本棚

湯川豊編  
《安楽椅子の釣師》  
釣師

釣りという遊びをいかに楽しむか。露伴、井伏、開高など小説家の名品だけでなく、素石や雨村といった釣師たちの不思議な味の随筆、画家船井裕や彫刻家舟越保武などの知られざる名篇、辻まこと、カヌーイスト野田知佑、サル学者河合雅雄のエッセイ。さらには高橋治、西木正明、夢枕

## 八ッ場ダム、景観、震災、現在まで

森まゆみ

「海沿いの何もなくなった町にたずね、へもういちどここで」と声を出してみるが、誰も答えてくれない。どうしたらここで町を作り直し、人々をつなげて行けるか、希望をもつて暮らせるか。そのために私は何ができるのか」

「若い叔母さんという感じがありません(戸川秋骨)寂しがつておられるところへ行き合わせると涙を出さんばかりに喜ばれた」(正田達子) 明治二九年、二五歳で逝った樋口一葉(夏子)。その素顔を知る家族や友人、同時代の

「若い叔母さんという感じがありません(戸川秋骨)寂しがつておられるところへ行き合わせると涙を出さんばかりに喜ばれた」(正田達子) 明治二九年、二五歳で逝った樋口一葉(夏子)。その素顔を知る家族や友人、同時代の

## 状況への批判的介入

上村忠男

「ヘテロトピア。文化の内側にあつて他の場所を表象する」と同時に異議申し立てを行う。ときには転倒してしまふ「異他なる反場所」。どの文化にも安住せず、(鏡)の役割をはたす。たとえばサイドのような境界的知識人がそこに

文学者が綴り語る女文士一葉。あるいは一人の女性なつちやんの肖像。薄田泣菫、平田亮木、馬場孤蝶、半井桃水、幸田露伴他。現代かなづかいで明治の音が甦る。『六月下旬刊』(四六判・192頁・二五二〇円) シュテファン・ツヴァイク

「若い叔母さんという感じがありません(戸川秋骨)寂しがつておられるところへ行き合わせると涙を出さんばかりに喜ばれた」(正田達子) 明治二九年、二五歳で逝った樋口一葉(夏子)。その素顔を知る家族や友人、同時代の

## 罪の償いと新しい生き方

坂上香

取り返しのつかない罪を犯した時、人は罪と向き合い、償うことができるだろうか。「ライフ・アーツ」とは、米国の終身刑受刑者のこと。民間の更生施設「アミティ」は、刑務所内プログラムでライフ・アーツと積極的に関わってきた。スタッフの多くは元受刑者や元薬物依存者というユニークな団体である。

「現代思想」(七月下旬刊) (四六二八頁・予価三七八〇円)

「現代思想」(七月下旬刊) (四六二八頁・予価三七八〇円)

## 状況への批判的介入

上村忠男

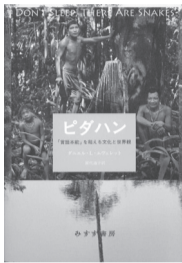
「ヘテロトピア。文化の内側にあつて他の場所を表象する」と同時に異議申し立てを行う。ときには転倒してしまふ「異他なる反場所」。どの文化にも安住せず、(鏡)の役割をはたす。たとえばサイドのような境界的知識人がそこに

## 書評コラム

現代社会で生きること悩むすべての人に強く本書を推薦する。いや、もしかしたら知らない方がいいかもしれない。些細な悩みは霧散しても、硬い芯のような悩みが新たに生まれることとなるからだ。私はそれほどまでに根本的なことを蹴飛ばされて、ピダハンとピダハン後で少し世界観が変わってしまった。

## 服部文祥

D.L.エヴェレット  
《ピダハン》  
屋代通子訳  
を読む



たことしか信じない(とうか存在しない)。そこには自分たちの起源を伝えるような伝承もない。  
著者は次第に、ピダハンの言語そのものがアマゾン奥地で自力で暮らしている

「海沿いの何もなくなった町にたずね、へもういちどここで」と声を出してみるが、誰も答えてくれない。どうしたらここで町を作り直し、人々をつなげて行けるか、希望をもつて暮らせるか。そのために私は何ができるのか」

「ヘテロトピア。文化の内側にあつて他の場所を表象する」と同時に異議申し立てを行う。ときには転倒してしまふ「異他なる反場所」。どの文化にも安住せず、(鏡)の役割をはたす。たとえばサイドのような境界的知識人がそこに

「現代思想」(七月下旬刊) (四六二八頁・予価三七八〇円)

「現代思想」(七月下旬刊) (四六二八頁・予価三七八〇円)

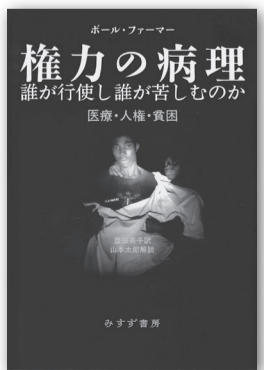


サンディエゴの真実を導いた一枚の刑務所写真

「本書は勇気ある対決に必要な理解の獲得に、大きく貢献するだろう」(アマルティア・セン序文)

## 権力の病理 誰が行使し誰が苦しむのか

ポール・ファーマー 豊田英子訳 山本太郎解説  
医療・人権・貧困 四六判 520頁 5040円



世界の最貧困層と超富裕層の grotesque な格差が最も深刻なのは医療の分野だ。ハイチの窮乏、メキシコの貧農の大虐殺、ロシアの監獄の結核。30年以上にわたって貧困国で無償医療活動を行ってきた医師であり人類学者ポール・ファーマーは、生きる権利と正義の無残な蹂躪を、多くの例証によって示す。権利侵害は「権力の病理」の現れであり、現代の諸学が取り組むべき最も緊急な問題として認識されるべきである——それがファーマーの主張であり、実践してきたことでもある。真の解決策のためのバイブル。

クラインマン／ファーマー他 坂川雅子訳 池澤夏樹解説  
《みすず》最近号より  
「コサンスキイ」オデッサの花嫁／モルターニョ「フランス民族音楽学への新しい風」辻由美「フランソワ・チェンに訊く」／「新連載」保坂和志「試行錯誤に漂う」(四月号) 山本太郎「ポール・ファーマーとジム・ヨン・キム」酒井啓子「私の名前を覚えてほしい」宮田昇「蝸ノ記」と「パーバック」(五月号) デインモア、ゴードン「2011年東日本大震災 デジタルアーカイブ www.archive.org」ブローマー「この本でもなく——」母語の外で書く(六月号) 連載は小沢信男、大谷卓史、外岡秀俊、池内紀、高桑信一、佐々木幹郎、植田実、上村忠男ほか。(各三二五〇円)

「これらの心得は心理療法における「お作法」のようなものではない。「お作法」は半ば形骸化した「慣例」ないしは「きまりごと」のようなものである。(…)それは先生やスーパーバイザーから教え込まれてはいても、面接者はその根拠を十分に示すことができず、また来談者の利益を最大限に優先した上で唱えられているものとは限らない。それに比べて私が言う心得とは、まさに心理面接者がその治療を効果的なものとするために持つことが期待される、一種の思考回路のようなものである。その思考回路の詳細は、各心得ごとに数ページにわたって示してあるのだが、その意味が通じるならば、それを根拠として用いていた

## 面接者の心のストレッチ

岡野憲一郎

《心理療法／カウンセリング 30の心得》

著者はPTSDや解離性障害、人格障害、社交恐怖症などの治療経験を多くもつ精神科医。長年、面接室で患者と向き合うなかで、頻りに繰り返し出会う迷いや疑問。その時、治療者としてのどのような状況を受け止め、対応することがよい治療効果につながるのだろうか。そこには治療を越えて、人間関係にどうして大きな変化が現れているのではないかとときに「患者から治療者がどう見えているか」といった素直な疑問や自己分析的考察を交えながら、広く臨床家に向けて著わされた、面接者の心のストレッチ、となる実用的一冊。

【精神医学】【七月中旬刊】(四六二〇頁・予価三三〇〇円)

## 科学の「原罪」と原子力

朝永振一郎  
江沢洋編

朝永振一郎は原子力の研究開発をめぐる議論に関わるなかで、科学の「原罪」という

認識を繰り返して語っていた。朝永が科学と現代社会の関係の異常性や核抑止論の錯覚を真摯に論じた随筆、および原子力開発の最初の岐路に立った五〇年代の科学者らの姿を映し出す貴重な座談を収録し、震災後の世に伝える。

【科学論】【六月下旬刊】(四六二〇頁・予価三三〇〇円)

## ナチスへの道筋か、辛辣な批判か

カール・シュミット  
大久保和郎訳 野口雅弘解説

シュミットは一筋縄ではないかない思想家だ。ナチスに協力する一方でアーレントやアガンベンらに影響を与え、政治を考える方法に決定的な変更を迫る。ワイマール共和政の「決断なき政治」を痛烈に批判し、その根源にあるロマン主義を徹底検証した本書

は、全体主義を考える必須の書である。【政治思想】(四六二〇頁・予価三三〇〇円)

## 数学の精神史、科学哲学の古典

下村寅太郎  
加藤尚武解説

「純粋数学の形成はヨーロッパに独自の事件であるだけ

でなく、世界的な事件である。純粋数学の成立は実はずいぶん稀有な歴史的個人的な事件であり、深き精神的意義をもつものではないか。精神史としての科学論を打ち立てた、科学史／科学哲学の古典的名著。数学と自然科学と形而上学の三位一体性から「ヨーロッパ精神」形成の系譜を辿る。【科学哲学】【六月下旬刊】(四六二〇頁・予価三三〇〇円)

## シベリア抑留の『夜と霧』

石原吉郎  
岡真理解説

敗戦とともにソ連軍に抑留され、八年間のシベリア収容所体験をへてきた著者は、帰国後、生き残った者として、戦後日本社会の変貌に戸惑いながら自らの体験を言語化し

ていった。〈告発〉しない生き方とは、加害者とは、罪とは、自己とは何か。日本人による『夜と霧』とも評される比類なき書。【批評・現代史】(四六二〇頁・予価三三〇〇円)

## 少年はクレオパトラをどう演じたか

楠明子《シエイクスピア劇の少女たち》

少年俳優とエリザベス朝の大衆文化



少年俳優が演じたクレオパトラ

シエイクスピアの演劇においては女性の出演はなく、少年たちが「女性」を演じた。彼らはオフィーリアやクレオパトラをどう演じたのか？ 貴族や庶民の男はともかく女性からも彼らが受容されたの

はなぜか？ 本書は当時の大衆文化(「じゃじゃ馬」などの洞窟からの謎に迫った類書のない独自の論考。「イギリス文学」評論【七月下旬刊】(四六二〇頁・予価三三〇〇円))

▼好評既刊 楠明子『マリア・シドニー・ロウス——シエイクスピアに挑んだ女性』(三三〇〇円) / 同『英国ルネサンスの女たち——シエイクスピア時代における逸脱と挑戦』(三三九〇円)

## 二〇世紀診断学の課題を再考する

笠原嘉臨床論集《境界例》概念と臨床

「境界例」という語が精神医学史上に表れたのは一九二八年のことである。「神経症」と統合失調症の境界」を意味するこの病態を、ある者は統合失調症の亜型だと言ひ、ある者は神経症と統合失調症の移行状態であると言った。

では「境界例」とはいつた何だったのか？ 境界例概念と症例をめぐる論考七篇に、二〇世紀後期の境界例研究の意義を考察する書き下ろし論考を付す。

【心理精神医学】【七月中旬刊】(四六二〇頁・予価三三〇〇円)

## 工場日記 新訳ほか

富原真弓訳《シモーヌ・ヴェイユ選集Ⅱ》

日本オリジナル選集の第二巻は、労働と革命にまつわる中期の仕事を集める。

『自由と社会的抑圧の原因をめぐる諸考察』を書き上げたヴェイユは、未熟練女工として工場での労働に身を投じた。現場での過酷な経験によって独自の労働理論を磨き上げた『工場日記』をはじめ、『展覧』など、一九三〇年代ナチ

ズム・スターリニズムの政治に関する論文、時事論評を加えた全13篇。

【哲学・思想】【八月上旬刊】(A5292頁・予価五〇四〇円)

▼既刊『シモーヌ・ヴェイユ選集Ⅰ——初期論集・哲学修業』(富原真弓訳)(五〇四〇円)

▼続刊『シモーヌ・ヴェイユ選集Ⅲ——後期論集・霊性・文明論』(来年春刊行予定)

## 東京国際ブックフェア 2012のお知らせ

年に一度の本の祭典「東京国際ブックフェア」が、7月5日(木)から8日(日)まで四日間(一般公開日は後半の二日間)、有明の国際展示場「東京ビッグサイト」で開催されます。みずず書房は今年も「書物復権八社の会」の一員として出展いたします。日頃の感謝をこめ、会期中

宮崎かつゑ『長い道』も、まもなく七月上旬の刊行予定です。あわせてお手にとつていただければ幸いです。

「四六判宣言」文庫では読めない本たち」というブックフェアをご存じでしょうか？ これは毎年夏場に書店店頭で展開される「文庫本フェア」に対抗して始まった、出版社11社によるハードカバー限定のブックフェアです。ちなみに四六判とは、現在出版されている単行本の標準的なサイズ(B6判に近い)の呼称です。この夏も読み継がれるロングセラーや話題の書を集めて全国の有力書店で開催されます。ぜひ足を運んでください。



話題の新作『建築を考える』がついに刊行となりました。スイスの著名な建築家ペーター・ツムトア(ピーター・ズントー)のこぼれを集めた珠玉の一冊です。いわゆる建築書の枠をこえて、幅広い層に受け入れていただける本になりました。ゆったりとした時間の中で味わいながらお読みいただければと思います。

みずず書房・最近の重版より	
人生と運命 [全3巻] グロスマン 齋藤絃一訳 ①¥4515 ②③各¥4725	
貧乏人の経済学 A.V.バナジー/E.デュフロ 山形浩生訳	¥3150
零度のエクリチュール [新版] ロラン・バルト 石川美子訳	¥2520
芸術人類学 中沢新一	¥2940
ピダハン——「言語本能」を超える文化と世界観 D.L.エヴェレット 屋代通子訳	¥3570
精神医療過疎の町から 阿部憲一郎	¥2625
看護倫理 1 ドゥーリー/マッカーシー 坂川雅子訳	¥2520
親切な進化生物学者 O.ハーマン 垂水雄二訳	¥4410
偶然と必然——現代生物学の思想的問いかけ J.モノー 渡辺格・村上光彦訳	¥2940
量子力学 I 朝永振一郎	¥3675